

フォーラム

超高齢社会を生きる

～認知症の人の思いから始めるまちづくり～

超高齢社会を迎えた日本。

少子化も伴い、過疎・高齢化が加速しています。

また、熊本地震はそうした現実を更に深刻化しました。

それまでの暮らしが立ち行かなくなり、いまだに悩む人も少なくありません。

震災から3年。

自分らしく生きがいをもって暮らし続けるために。

たとえ年を重ねても、認知症になっても、

私たちにできることは何か、語り合います。

入場無料 参加者募集中

事前の申し込みが必要です。申し込み方法は裏面をご覧ください。



日時 **2019年 3月 3日(日)**

開場：午後0時30分 開演：午後1時 終演：午後3時45分
※途中休憩あり

会場 **ホテル熊本テルサ テルサホール**

住所：熊本県熊本市中央区水前寺公園28-51

定員 **500人**

パネルディスカッション

『認知症にやさしいまちづくり』



認知症の当事者

光嶋 早代子



家族

光嶋 敏雄



医師

前田 淳子



支援者

矢野 成美



支援者

山本 智恵子



支援者

野口 泰宏



農家

福田 圭吾



コーディネーター

町永 俊雄

※内容は一部変更になる場合がございます。



交通

- 熊本市電『市立体育館前』電停から徒歩約10分
 - 熊本都市バス『熊本テルサ前』停留所からすぐ
 - 熊本都市バス・熊本バス・九州産業交通バス『県庁前』停留所から徒歩約6分
- ※駐車場（有料）の台数に限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

出演者プロフィール

光嶋 早代子・光嶋 敏雄

認知症当事者

家族（夫）

7年前の52歳の頃に、運転が分からなくなる、約束を忘れる、料理ができなくなるなどの症状が現れ、54歳で若年性認知症と診断される。ショックで家に引きこもるようになった早代子さん。しかし、もともと活発な性格の彼女をなんとか元気づけようと、夫の敏雄さんは妻の不安に寄り添い、認知症カフェと一緒に過ごすことで、楽しむ時間を作ることで、徐々に元気を取り戻し始めている。

前田 淳子

まえだクリニック 院長

1988年に熊本大学第一内科入局。熊本市医師会熊本地域医療センターを経て、国立療養所再春荘病院呼吸器科に勤務。内科医として総合的に患者の治療にあたってきた。2000年に「まえだクリニック」を継承し、訪問診療など地域医療に力を注ぐ。2012年、同じく在宅医の清藤千景氏とともに在宅支援研究会「てとてとココロ」を立ち上げ、医療の枠を超え、誰もが笑顔でいきいきとつながりながらともに成長していける地域づくりを目指している。認知症サポート医。

矢野 成美

認知症カフェ「みちくさ」代表

合志市在住。2005年からケアマネージャーとして認知症のひとと家族の支援に携わっている。自らも家族を介護した経験を持ち、家族として様々な集いの場に参加するなかで、2014年5月、県内初の認知症カフェ「みちくさ」を立ち上げた。認知症になっても気軽に立ち寄れる居場所にしたいと「決まりなく、自由に」をモットーに毎週金曜日に開催。今では多くの認知症の本人と家族の拠り所となっている。認知症があってもそれまでの日常が続けられるよう支援を続けている。

山本 智恵子

訪問ボランティアナースの会
キャンパス熊本 代表

熊本市生まれ。2006年熊本市医師会看護専門学校卒業。2014年訪問ボランティアナースの会キャンパス熊本を発会。2016年の熊本地震により被災。その後、キャンパス熊本として益城町からの委託を受け、県下最大のテクノ仮設団地の見守り支援及び管理を行う。新たに、障がい児のためのリメイクやオーダー、エンディングドレスなどのデザインや開発を手がけている。

野口 泰宏

社会福祉法人天草市社会福祉協議会
牛深支所 主任

天草市在住。2008年に天草市社会福祉協議会に入局。2012年より牛深支所に配属。地域通券券を用いた会員同士の支え合い制度である「ほっと安心サポート事業」の担当となり、事業の立ち上げに関わる。住民の困りごとに関する相談対応、会員同士のマッチング、加盟店との連絡調整などに従事。その他、成年後見センター、見守りネットワーク事業などを担当。

福田 圭吾

あさぎり薬草合同会社 代表

球磨郡あさぎり町在住。22歳でJAくま（球磨地域農業協同組合）に入組。球磨メロンをはじめ、い草栽培の指導販売に取り組む。57歳で退職後、あさぎり薬草生産組合（現 あさぎり薬草合同会社）に入組し、2017年より現職。漢方薬の材料であるミシマサイコを栽培する傍ら、代表として高齢者の栽培管理などにも力を尽くしている。今後は若い世代も巻き込み、薬草を人吉・球磨の基幹作物に育てたいと考えている。

コーディネーター

町永 俊雄

福祉ジャーナリスト

1971年NHK入局。「おはようジャーナル」キャスターとして教育、健康、福祉といった生活に関わる情報番組を担当。2004年からは「福祉ネットワーク」キャスターとして、うつ、認知症、自殺対策などの現代の福祉をテーマに、共生社会の在り方をめぐり各地でシンポジウムを開催。現在は、フリーの福祉ジャーナリストとして活動を行っている。

参加申し込みについて

入場は無料ですが、事前の申し込みが必要です。

参加ご希望の方は、はがき（単信）、FAX、メール（ホームページの申し込みフォームから）のいずれかに

1. 名前（必ず個人名を記入） 2. 郵便番号・住所 3. 電話番号 4. 参加人数

5. ご一緒に参加される方の名前（複数名の参加を希望される場合）を書いて、お申し込みください。

お申し込み先

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-4-1 第七共同ビル

NHK厚生文化事業団「フォーラム 超高齢社会を生きる 熊本」係

FAX 03-3476-5956 ※FAX番号はお間違いのないようお願いいたします。

ホームページ <https://www.npwo.or.jp>

※当日の入場は『入場整理券（1枚で1人入場可）』が必要です。2019年2月下旬以降、順次、希望人数分を封書でお送りいたします。

※郵便番号、住所は正確にご記入ください。誤りおよび記入漏れがある場合、入場整理券が届かない場合がありますので、ご注意ください。

※個人情報は適切に管理し、本フォーラムの連絡のみに使用いたします。

**定員になり次第
締め切ります**

下記欄にご記入の上、そのままFAXにてお送りいただけます。

超高齢社会を生きる 熊本	ふりがな	参加人数	< ご一緒に参加される方の名前 >
	名前		
	住所 〒		
	電話番号		

※必ず個人名をご記入ください。

人

※勤務先住所の場合は、勤務先名も忘れずにご記入ください。